

# 平成14年度実施事業 詳細評価シート

担当部課	保健福祉部はまなす 保育園	直通電話	62-3247	事業コード	304010702	課内	2	作成日	平成15年8月15日
		担当者	根本弘美	担当課長	神林正幸	担当部長			棚橋文男

## 1 事業のアウトライン

1) 事業名	通常保育事務	開始年度	S43	終了年度	未定				
		最近の事業内容見直し年度							
2) 総合開発計画での事業体系	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 10%;">施策コード</th> <th style="width: 90%;">大項目 / 小項目 / 細項目</th> </tr> <tr> <td>3040107</td> <td>福祉の充実/福祉の充実/子育て環境の充実</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	施策コード	大項目 / 小項目 / 細項目	3040107	福祉の充実/福祉の充実/子育て環境の充実				
施策コード	大項目 / 小項目 / 細項目								
3040107	福祉の充実/福祉の充実/子育て環境の充実								
3) 個別計画での位置付け	石狩市福祉総合計画(自立を支援するサービス提供の推進)石狩男女共同参画プラン21(自立を支える社会環境の整備)								

## 2 事業の内容

1) 事業の目的 何のために	子育てしやすい育児環境の整備、こころ豊かな子どもを育てる支援サービスの充実、子育てと仕事の両立のための支援をする。
2) 目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	保護者が子育てと仕事を両立させた生活体系を求め、そのニーズは多様化している。安心して働ける保育サービスを考えて、地域や時代に則した環境づくりをする。
3) 事業の方法 どんな手段を講じるのか	小規模保育園の保育内容を工夫する。(異年齢保育、放課後児童との交流、地域住民との交流) 保育士の専門職としての責務を果たすための研修を受講する。子育て支援体制、相談活動、情報の提供を行う。父親の子育て参加の場をつくる。
4) 14年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	なし
5) 事業の背景・社会状況・他の類似事業など	高齢、少子社会を迎えて、家庭や地域社会においても急激な変容を遂げている。地域や時代のニーズにも対応した保育所づくりが急務と考える。子育て支援センター、子育てサロン、育児サークル
6) 事業の立案や実施などへの市民参加	なし
7) 評価中間公表への市民意見	なし

## 3 事業に投入した行政資源

項目	H12	H13	H14	H15 予算	H14 事業費の主な内訳	金額(千円)
1) 直接事業費(千円)	4,059	4,255	5,531	5,951	保育所運営費(臨時保育士賃金、賄い材料費、消耗品費等)	5,531
2) その他の間接経費(千円)	230	234	249			
3) 従事正職員の人件費(千円)	15,611	15,750	15,645			
総事業費(1~3の合計;千円)	19,900	20,239	21,425			
総事業費中の一般財源(千円)	14,146	14,476	15,782			
市民一人当たり一般財源使用額(円)	256	261	282			
事務に従事した正職員のべ人数	1.90人	1.90人	1.90人			
					H14 主な特定財源の内訳	
					国負担金	3,762
					道負担金	1,881

## 4 事業活動の結果

事業活動の結果を示す指標	H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	
年間利用延べ児童数(人)	目標値	8,850	8,760	8,820	8,880	定員30*開所総日数、 出席実数
	実績値	4,425	3,504	4,410		
	達成率	50.0%	40.0%	50.0%		
	目標値				/	
	実績値					
	達成率					
	目標値				/	
	実績値					
	達成率					

## 5 事業の成果

事業名：通常保育事務

事業の成果を示す指標		H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	確認方法
一日平均入所児童数 (人)	目標値	30	30	30	30	入所児童月平均	出席簿
	実績値	15	12	15	目標レベル		
	達成率	50.0%	40.0%	50.0%			
	最終目標	年度に					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					

## 6 事業の観点別評価

1) 事業活動の状況	[課長評価]	極めて良好	概ね良好	一部問題あり	大きな問題あり
[評価ポイント] 活動結果や活動効率、事業改善等の効果はどうだったか	少子化が進行する中、事業の達成率は各年度によって若干の変動があるが、概ね妥当と考えられる。				
2) 有効性・必要性	[課長評価]	有効かつ必要	有効性に疑問あり	必要性に疑問あり	ともに疑問あり
[評価ポイント] その事業は事業目的の達成に効果があるか、また、市民(対象者)に必要なとされているか	就労形態の多様化、核家族化などによる多様な保育ニーズが求められている今日、そのニーズに対応するため保育業務を行っており地域に保育所の存在が必要である。また、職員数は、配置基準など必要数の定数配置と児童入所数に応じた配置を行っている。				
3) 市関与の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] その事業に市が関与する必要があるか、市がどこまで関与するのが適当か	この事業は、保育所にとって不可欠な事業であるため、市の関与は必要であり、保育所運営については、私立でも可能であるが地域性から見て、市で行うことが妥当と考えられる。なお、私立が運営希望をすれば運営委託しても問題がないと思われる。				
4) 事業内容の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] 目指す成果を挙げるためには今の事業内容が適当か、受益と負担の関係に不公平はないか	入所定員に対し入所率は、50%前後であるが、この地域は、高齢化とともに過疎化も進み若年層が低いことからほかの地域との格差が大きい。また、今後の保育運営については親が安心して就労等ができるよう、保育サービスの拡大を図るべきである。受益者負担は、国の基準に基づいて保育料を決定している。				

## 7 平成14年度事業の総合評価

[評点の意味] A: 極めて良好 B: 良好 C: 可も不可もない D: 問題がある E: 大きな問題がある	[課長評価]	B	[最終評価]	B (前年度)
	はまなす保育園の持つ機能を活かし、様々な保育サービスの拡大を図る必要はあるが現時点では、良好な状態と思われる。		園長評価を了承する。	

## 8 今後の方向性・課題

担当課長評価	事業は国の制度に沿って行っているものであり、今後共必要である。
最終評価	今後、地域性等を考慮したサービスの工夫・拡大が必要である。

## 9 平成16年度の方向性

* ; 担当課長 ; 最終評価	事業内容		
	現状維持	一部見直し	大幅見直し
事業規模	拡大方向		*
	現状維持		
	縮小方向		
	統合 休・廃止		
上についての説明	延長保育の取り組みによる予算額の増額		